Ⅲ　研究のまとめ

１　成果

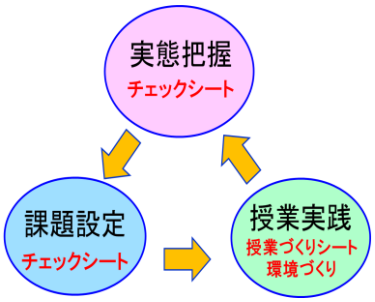
環境づくりに視点を当て，児童生徒の「わかる」，「できる」を大切にした日常生活における指導の授業づくりを行ったことで，児童生徒が主体的に活動に取り組む姿が様々な場面で見られるようになってきた。昨年度までの研究を生かし，日常生活における指導においても，支援ツールの活用や配置，教師の役割などを工夫し，見直したことで，教師主導から児童生徒自身の活動へと変容してきた。

また，学部研修会や全体研修会などの研修を通して，環境づくりの視点や手立てを互いに交流することができ，取組の共有化を図ることができた。このことが授業づくりの更なる工夫，発展へとつながった。特に全校で取り組んだポスターセッションでは，様々な児童生徒の実態に合わせた実践の交流を図ることができ，環境づくりに視点を当てた授業づくりを全員参画で進めることができ，研究の活性化にもつながった。

今年度より導入したチェックシートを使って実態把握を行うことができたことも連携協同の姿勢で授業づくりを行うことにつながり，成果の一つであると考える。

２　課題

課題としては,授業づくりのサイクルを十分に機能させていくことができなかったという点が挙げられる。評価規準を明確にしていくことや，適切な評価をしてくことで，児童生徒の更なる主体的な姿へとつなげていきたい。そのためチェックシートを，重複障害の児童生徒を始め，様々な実態の児童生徒の実態把握に有効性のあるものにしていけるように見直し，修正を行っていく必要がある。また，授業づくりシートも実施時期を見直し，十分に活用できる授業づくりのサイクルを形成できるように，取り組んでいくことが課題である。



３　今後の展望

児童生徒の「自分から動いている」を高めるために，児童生徒自身が「できた」と達成感を感じて，自信や意欲へとつなげられる取組を目指していきたい。そのことが生活意欲や生活態度を育てることにつながり，自立と社会参加へとつながっていくと考える。そのために環境づくりに視点を当て，更なる授業改善へと進めていきたい。

児童生徒が安心して活動できる集団において，教師や友達とかかわり合いながら活動できることによって，達成感や自信をより強く実感できるのではないかと考える。「わかる」，「できる」を積み上げ，「かかわりあう」を大切にした授業づくりに取り組み，生活意欲や生活態度を育てる日常生活における指導の在り方を模索し，環境づくりに視点を当てた授業づくりを行いながら，そのサイクルの確立や充実を図っていきたいと考える。

児童生徒が，「わかった」，「できた」と実感し，周囲の人とかかわり合いながら自分らしく生活していく力を身に付けることを目指し，今後も授業づくりに励んでいきたい。